

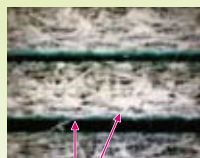
プリント基板づくりに一線を画す 独自のSAF金型工法を開発

株式会社藤原電子工業

大阪
21
<http://www.fdk-ltd.jp/>

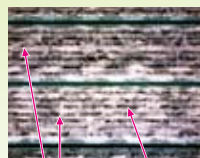
顕微鏡写真 1.6mmの材料を切断面から観察 写真は1.6mmの材料を重ねて撮影

1従来の金型



バリ 白い部分は埃

SAF金型

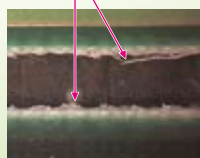


バリ 白い部分は埃

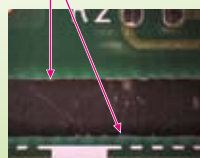
SAF金型+SAF工法

ガラス繊維の層
バリはほとんど観測されない
埃もほとんど観測されない

拡大写真

埃
ガラス繊維の編みこまれた
状況が鮮明に観測できる

切断した上面からの写真



切断した上面からの写真



切断した上面からの写真

SAF金型+工法の使用例

プリント基板のクオリティアップ、 コストダウンを実現

自動車、電化製品、携帯電話などあらゆるところに使用されているプリント基板。エレクトロニクス産業の発展とともに、そのプリント基板も高密度化・薄型化が求められている。そうした時代の要請に、高精度の金型製作とプレス技術で応えているプリント基板加工の専門企業がある。藤原電子工業だ。

プリント基板は通常、布状のものにガラス繊維が編み込んであり、それを何枚か重ねて樹脂で固めてある。従来、金型で基板をプレスすると、ガラス繊維がきれいに切れずに引きちぎったような状態になっていた。このような基板の上に部品を付けていくと、バリやホコリなどのため、ショートを起したり、トラブルの原因になってしまふ。そこで、荒抜き用と、出ているバリを削ぎ落とす仕上げ用と同じ金型を2台作り、シービングという方法で完成度を高めていた。

そうした状況のなか、藤原社長は金型を自分で工夫。日夜試行錯誤し

ながら改良を重ね、ついにSAF金型を完成。断面にホコリも出ない、バリもない画期的なプリント基板プレス工法を確立したのだ。その精度の高さは一目瞭然で、金型はひとつですみ、藤原に出せばコストダウンになったとまったく間に評判になった。



プレス機

八尾市ロボットコンテストで優勝、 将来は八尾市をロボットの町に

「高付加価値で他ではできない基板づくりをやっていききたい」と語る藤原社長。そのためには、社員一人一人の新しいものに挑戦する気概が不可欠だ。そこで2009年、社員教育の一環としてロボットづくりへの挑戦を命令。若

い社員を中心にプロジェクトを結成し、第1回八尾ロボットコンテストへの出場をめざしたのだ。何も知らないまったくゼロからの出発であった。日本橋やホームセンターで部材を買い集め、悪戦苦闘しながら見事に第1号が完成。箱をつかんで運びピラミッド型に早くきれいに積み上げるという競技で、なんと優勝を果たしたのだ。このことで、やればできるということ社員胸に刻み込んだ。次回の大会にも出場予定で、もちろん目標は優勝。

藤原社長は、このロボットづくりのノウハウを今後事業として展開していく予定だ。まず、プレスを打ち抜くロボットを自社のプレスラインで開発。そして時を経ず、癒し系のロボットを売出し、将来は産業ロボットを開発販売していくという。この計画は自社ですべてをやるのではなく、八尾市にある他の企業との異業種連携で達成していこうというものだ。「八尾に今までにない産業を作り上げたい。中小企業が集まって八尾市をロボットの町として全国に発信していきたい」と藤原社長は語る。

Company Profile

株式会社藤原電子工業

住所 / 〒581-0042
八尾市南木の本2-52

創業 / 平成5年5月

設立 / 平成10年9月

資本金 / 1,000万円

従業員 / 25名

TEL / 072-991-3927

FAX / 072-991-3996

■主な事業内容

プリント基板のプレス加工・
ルーター加工・Vカット加工
プリント基板の金型製作、プリント
基板の製造に関する業務

■主な取引先

自動車業界、LED 業界、家電
メーカー、携帯電話

当社のセールスポイント

一人一人の創造力と
研究心により高品質の
製造技術を追求。

代表取締役
藤原 義春さん

当社は小規模・少人数の企業ですが、社員一人一人の創造力と研究心により、金型・プレス加工では困難とされている製品の研究開発と品質管理で実績を築き、さらに高品質の製造技術を追求しています。常に新しいものに挑戦する気概と、一歩先をリードする心構えでお客様のニーズにお応えし、プリント基板業界と社会に貢献できればと願っています。